

真理とは何か？—その二

この書の預言のことばを封印してはならない

Jeff Pippenger

2023-09-05

1840年8月11日から1844年10月22日までの歴史は、恩恵期間の終わり直前まで封印されていた七つの雷によって象徴される歴史であることが示されてきた。本稿ではまず、七つの雷の象徴性について私たちが明らかにしてきた幾つかの点を振り返ることから始める。私たちは、歴史の流れをいくつも重ね合わせて、これらの真理を提示している。1840年8月11日から1844年10月22日まで（当日を含む）には、四つの予言的な道標がある。すなわち、第一天使の使信のカづけ、最初の失望、真夜中の叫び、そして大失望である。

1840年8月11日は、燃える柴の場でのモーセによって象徴された。1844年春の最初の失望は、モーセの妻ツポラが悲しみと恐れのうちには彼らの息子に割礼を施した出来事によって象徴された。8月12日から17日にかけてエクセターのキャンプ集会で始まった真夜中の叫びは、モーセがエジプトに到着し、エジプトの長子の死について最初の警告を与えたことによって象徴された。

1844年10月22日の大失望は、紅海におけるヘブライ人によって象徴された。

ダビデ王の時代の出来事に照らすと、1840年8月11日は、ペリシテ人が神の箱を返したことに象徴された。1844年春の最初の失望は、ウザが神の箱に触れたことに象徴された。8月12日から17日にかけてエクセターのキャンプ集会で始まった真夜中の叫びは、ダビデが神の箱をエルサレムに運び入れたことに象徴された。1844年10月22日の大失望は、ダビデの妻ミカルが、神の箱とともにエルサレムに入ったダビデを軽蔑したことによって象徴された。

1840年8月11日はキリストの洗礼によって予表された。1844年春の最初の失望はラザロの死における失望によって予表された。8月12日から17日にかけてエクセターのキャンプミーティングで始まった「真夜中の叫び」は、キリストのエルサレム入城によって予表された。1844年10月22日の大失望は、十字架における失望によって予表された。

私たちは、これら四つの道標が、あらゆる改革運動の完全な構造の一部分にすぎないことを指摘してきた。私たちは、この四つの道標を、2001年9月11日に始まった歴史を証するものとして位置づけている。四つの各ラインの予言的特徴の一つは、各ラインの道標が同一のテーマを共有しているという点である。

モーセの場合、四つすべての道標は、アブラハムの預言の成就として、選ばれた民と契約を結ぶという神の働きを指し示していた。ダビデ王の改革の系譜では、四つの道標はいずれも神の箱に結び付けられていた。キリストの系譜では、四つの道標はいずれも死と復活に結び付けられていた。

1840年8月11日は、一日一年の原則の確認となった。1844年春の最初の失望は、一日一年の原則の失敗した適用によって引き起こされた。サムエル・スノーの「真夜中の叫び」

のメッセージは、その失敗した適用の訂正であり、完成であった。訂正されたメッセージは一日一年の原則に基づいており、1844年10月22日に成就した。四つの道しるべはいずれも、一日一年の原則を指し示している。

ホワイト夫人は、七つの雷は第一と第二の天使のメッセージの期間に起こった出来事を表していると私たちに知らせています。しかし、彼女はまた、七つの雷は「順を追って明らかにされる将来の出来事」をも表していると教えています。七つの雷は、1840年8月11日に始まり1844年10月22日に終わった四つの予言的出来事を表しており、その四つの道しるべは、私たちの歴史において同じ順序で繰り返される。

2001年9月11日は1840年8月11日によって予表されており、これら両日はいずれもイスラムと結び付いているため、アドベンチズムの始まりと終わりを結び付けている。1840年8月11日も2001年9月11日も、それぞれの歴史における主要な預言の原則の確証となった。

2001年9月11日に黙示録18章の天使が降臨し、1840年8月11日には黙示録10章の天使が降臨した。フューチャー・フォー・アメリカにとって最初の失望は、2020年7月18日にイスラムに関する予言が外れたことであった。封印が解かれたメッセージは、1844年夏にエクセターでなされた真夜中の叫びと同様に、先に与えられていた失敗した予言の訂正である。ミラー派にとって、その訂正は、主の再臨の時を1843年と特定した「一日を一年とする」原則の以前の誤った適用に関わるものだった。今日、ミラー派の真夜中の叫びのメッセージによって表されるその訂正は、これまでの二つの道しるべがそうであったように、イスラムを表す道しるべでなければならない。サミュエル・スノーの働きに見られるその訂正は、以前の失敗した予言を無視することではなく、以前に失敗したその予言を微調整することだった。

失望した人々は、聖書から、自分たちが遅延の時期にあり、幻の成就を忍耐して待たなければならないことを悟った。1843年に主を待ち望むよう彼らを導いたのと同じ証拠が、1844年には主が来られると期待するよう彼らを導いた。『Early Writings』247ページ。

今日、エクセターのキャンプ集会から出たメッセージに象徴されるメッセージは、以前に失敗した予言の完成となるだろう。ミラー派の歴史の大失望は、日曜法において起こる大いなる失望を表しているが、その失望はイスラムに関する予言の文脈で起こるだろう。サミュエル・スノーのメッセージは、正確な日付の特定であった。日付は正しかったが、出来事が違っていた。スノーのメッセージで表される今日のメッセージは、2020年7月18日の第一の失望で失敗したメッセージを完成させるイスラムに関するメッセージとなるだろう。

現在、時期や日付は関係していない。というのも、1844年10月22日以来、時期を定めることはもはや神の予言的メッセージの一部ではないからだ。

「主は私に示された。第三の天使のメッセージは進み、主の散らされた子らに宣べ伝えられなければならないこと、またそれを時に結びつけてはならないことを。というのも、時は二度と試しとはならないからである。私は見た。ある者たちが、時を説くことから生じる偽りの興奮に駆り立てられていることを。第三の天使のメッセージは、時よりもなお強い。私は見た。このメッセージは自らの土台の上に立つことができ、そ

れを強めるために時を必要としない.そしてそれは大いなる力をもって進み、そのわざを行い、義によって速やかに終わらせられるであろう。」『経験と見解』48、49.

私たちの歴史における第四の道標は日曜法でなければならない.というのも、あらゆる改革の系統の聖なる歴史を一つひとつ積み重ね、さらにそれらの歴史に対する預言の霊を通じた靈感を受けた注解を併せて考えると、力強い御使いが私たちの歴史に降りた後、第四の道標が日曜法であることが決定的に示されるからである.『順を追って明らかにされる将来の出来事』である七つの雷鳴の歴史における第四の道標は、あらゆる改革運動において同じ四つの道標には常に同一の主題が存在するという事実に基づけば、イスラムと結び付いていなければならない.

第二の理由として、日曜法における預言的出来事にはイスラムが関与する.ユダ族のししであるイエスは、これら四つの出来事の歴史を特に取り上げ、それ自体を一つの象徴として定義しておられる.その象徴が「七つの雷」である.ユダ族のししが七つの雷として特定する四つの道標の前後には、あらゆる改革運動において他の道標も存在する.それ自体で一つの象徴を成すものとして、これら四つの道標を含むその象徴的歴史の第一の道標は、2001年9月11日にイスラム勢力がアメリカ合衆国を攻撃した出来事を表していた.アルファでありオメガである方が終わりを初めと結び付けて示されるという事実は、日曜法においてイスラムが関与することを確認する.というのも、その四つの道標の第一が2001年9月11日のイスラム勢力による攻撃であったのだから、第四にして最後の道標もまた、イスラム勢力によるアメリカ合衆国への攻撃でなければならないからである.

日曜法がニューヨーク市に対するイスラムによるさらなる攻撃である可能性は十分にあり、その場合それは始まりによって特定される終わりとしての答えとなるだろう.しかし少なくとも、それは2020年7月18日の予言のとおり、イスラムによる攻撃となるだろう.

私たちはまた、アルファとオメガがその四つの歴史の中に一つの歴史を隠したことを指摘してきた.実際、その隠された内的歴史は、「黙示録の預言の言葉を封じてはならない」という命令と結びついて、今まさに明らかにされつつある主要な啓示である.七つの雷によって表されている四つの道標の中に、失望で始まり失望で終わる一 구간があるのを見ると、その隠された内的歴史が認識される.ミラー派の歴史において第二の天使の到来から第三の天使の到来までの期間は、それ自体が一つの象徴を表す独自の歴史である.それは食べなければならない天使のメッセージで始まり、こうして十人の乙女のたとえにおける遅延の時を画する.次いで、やはり食べなければならないメッセージである真夜中の叫びを明確にし、さらに食べなければならない第三のメッセージの到来へと導く.

七つの雷のラインの中にある隠された内的なラインは、失望を表す始まりと、天使の到来と、食べるようにというメッセージがその後大失望のときに繰り返されることによってだけでなく、「真理」によっても預言的に確認されている.

旧約聖書で「真理」と訳されるヘブライ語の「'emet」は、驚くべき言語学者が、ヘブライ語アルファベットの最初の文字に第十三の文字を続け、末尾を最後の文字で結ぶことによって作り上げた語である.私たちは、これらの文字が初出の法則、すなわち初めから終わりを識別する原則を表していることを示してきた.最初の文字は「アルファ」である.中間の文字はヘブライ語アルファベットの第十三文字で、反逆を表す.最後の文字は最

後、すなわち終わり、「オメガ」である。私たちは、これら三つの文字が、いくつかの預言的な系統によって確認されているとおり、永遠の福音の三つの段階を表していることを示してきた。

それら三つの文字の意味は、三天使の各メッセージの意味に対応している。それら三つの文字の意味は、ダニエル書12章10節にある、賢い者と悪しき者に関する「きよめられ、白くされ、試される」という浄化の過程にも対応している。「真理」という語を形作るために結び合わされた三つのヘブライ文字は、アルファとオメガのしるしを帯びており、第一の天使のメッセージでそれらが示す三つの段階は、永遠の福音と呼ばれる。それらの文字によって表される三つの段階は、ヨハネ16章に示されている聖霊の働きも表している。

そしてその方が来られると、罪と義とさばきについて、世にその誤りを認めさせる。罪については、彼らがわたしを信じないからであり、義については、わたしが父のもとへ行き、あなたがたはもはやわたしを見ないからであり、さばきについては、この世の君がさばかれたからである。ヨハネによる福音書 16:8-11。

第一の失望は罪として表される。これは、モーセ、ウザ、マリアとマルタ、そしてミラー派の人々の例に見られる。というのも、ヨハネによる福音書16章が、聖霊が「罪」を明らかにする働きについて、「彼らが信じないからだ」と述べているからである。今挙げたそれぞれの象徴は第一の失望を表しており、それぞれの歴史は、その失望が、すでに彼らに示されていたことを信じなかったという罪によって引き起こされたことを証言している。第一歩は罪の確信である。第一歩はヘブライ文字の最初の文字である。

隠された歴史の第二の道標は義である。そこでは、神の力の顕現が、真夜中の叫びのメッセージを担う者たちの義のうちに現れる。彼らは遅延の時の終わりに神の義を現す。というのも、ヨハネ16章には、キリストが御父のみもとに行かれ、彼らはもはやキリストを見なかったとあるからである。キリストは義の顕現に先立って、しばらくとどまっておられた。ミラー派においては、キリストが御手を取り去られたとき、誤りが明らかになった。その後、訂正されたメッセージの内容が、二つの階級の礼拝者を生み出した。一方は油を持っていたので義を現し、もう一方は、ヘブライ文字の第十三字母で表される反逆を現した。

全地の主のそばに立つ受膏者たちは、かつてサタンに与えられていた守りのケルブとしての地位を持っている。御座を取り巻く聖なる存在たちを通して、主は地に住む者たちと絶えず交信を保っておられる。黄金の油は、神が信者のともしびを満たし続け、揺らいで消え去ることのないようにされる、その恵みを表している。もし神の御霊の告げることばにおいてこの聖なる油が天から注がれなければ、悪の諸勢力が人を完全に支配してしまうだろう。

私たちが神から送られるみ告げを受け取らないとき、神は辱められる。こうして、暗闇の中にいる者たちに伝えられるために、神が私たちの魂に注ぎ込もうとしておられる黄金の油を、私たちは拒んでしまう。「見よ、花婿が来る。出て行って彼を迎えよ」という呼びかけが来るとき、聖なる油を受け取らず、心にキリストの恵みを大切にしていなかった者たちは、愚かな乙女たちのように、自分たちが主をお迎えする備えが

できていないことに気づくであろう。彼らには、その油を得る力が自分自身の内にな
いので、彼らの人生は難破してしまう。しかし、もし神の聖霊を求め、モーセがそう
したように「あなたの栄光を私に見せてください」と嘆願するなら、神の愛は私たち
の心に豊かに注がれる。黄金の管を通して、黄金の油が私たちに注がれるであろう。「
権勢によらず、力によらず、ただわが霊によって」と万軍の主は言われる。義の太陽
の輝く光線を受けて、神の子どもたちは世にあって光として輝く。Review and
Herald, 1897年7月20日。

「真夜中の叫び」のメッセージを受け取る者たちは、ホレブの洞窟で神にご自身の栄光
を示してくださるよう嘆願したモーセによって象徴されていることに留意してください。
その二つのグループは、真夜中の叫びの前、待機の期間に品性を確定していた。

私たちは今、きわめて危険な時代に生きており、キリストの再臨に向けた備えをする
ことに、私たちのうち誰一人として遅れてはなりません。愚かなおとめの例に倣い、
その時に立ちうる品性の備えを身につけるのを、危機が来るまで待っても安全だなど
と思ってはなりません。客が呼び入れられて調べられるときになってからキリストの
義を求めても、もはや手遅れです。いまこそキリストの義という、子羊の婚宴に入る
にふさわしくさせる婚礼の衣を身にまとう時です。たとえの中で、愚かなおとめたち
は油を乞い求めますが、願ってもそれを受けることはできません。これは、危機の時
に立ちうる品性を培って自らを備えることをしてこなかった者たちを象徴しています
。The Youth's Instructor, 1896年1月16日。

真夜中の叫びのとき、一方の人々は必要な油を持っており、他方は持っていなかった。第
二の段階とは、待機の時期の終わりにおける、義または不義の顕現である。「なぜなら」
花婿が自分の「父」のもと「へ」行き、「あなたがたはもはやわたしを見ない」からで
ある。第二の段階はヘブライ語アルファベットの第13文字である。隠された歴史における
第三の段階は、裁きと大いなる失望、そしてアルファベットの最後の文字である。

七つの雷のうちにある隠された歴史は、「真理」という言葉によって、初めの失望が最
後の失望を指し示すことによって、また初めと終わりに天使がメッセージを携えて到来
することによって、証しされている。この隠された歴史を認識できるのは、最高の権威に
よって与えられた聖書研究の規則を受け入れた者だけである。初めにはミラーの規則、終
わりには預言の鍵。

先ほど示した七つの雷の歴史に関して、繰り返し強調し記憶すべき点がある。あらゆる改
革の流れにおける最初の失望は、既に確立された真理の無視である。モーセは息子に割礼
を施すのを忘れたが、それこそアブラハムの預言が指し示していた契約のしるしであっ
た。ウザは、契約の箱に触れることができるのは祭司職だけであることを忘れた。ラザロ
の物語では、マリヤとエリザベツが、かねてからキリストの復活の力を知っていたこと
を証言している。1843年の図表が作られたとき、指導者たちは（同調圧力により）ミラー
師に、1843年という年について彼が常に語ってきたことを無視するよう迫った。彼らは、
二千三百日の成就是1843年だという自分たちの予測に合わせ、1843年という日付に幅を
持たせていた彼の確立された証言を改め、1843年に成就すると断言するよう迫った。ミラ
ーの証言は、運動の他の指導者たちがもたらした同調圧力によって、彼が予言成就の期
日についての曖昧な示し方を捨て、1843年に成就すると直接述べるに至ったことを示し

ている。

フューチャー・フォー・アメリカとともに、私たちは、「時に懸けられた」メッセージが二度と現れないことを知っていた。フューチャー・フォー・アメリカは、その運動の歴史を通じてその事実を繰り返し教えてきた。最初の失望は、確立された試金石となる真理を無視することに常に基づいている。それは真理を罪深く無視することだったが、さらに重要なのは、1844年で終わると明確にされていたウィリアム・ミラーの第一の規則を罪深く無視したことだった。

また、私が海の上と地の上に立っているのを見た御使いは、天に向かって手を上げ、とこしえに生きておられる方、すなわち天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方にかけて誓った。「もはや時はない。」黙示録 10:5, 6.

ホワイト姉妹によれば、陸と海の上に立っていたその御使いは、「イエス・キリストご自身にはかならないお方」であった。フューチャー・フォー・アメリカは、イエス・キリストからの直接の命令を無視した！個人的には、2020年7月18日以前に私が関わっていた人たちのうち、ほんの一握りの人々としかやり取りしていない。そのわずかな人たちのうち、2020年7月18日の経験について、神の御言葉から出てくる事柄を共に学び、吟味したのはたった二人だけであり、そのうち一人は今イエスにあって眠っている。しかし、私たちがその終わりに当たる運動の始まりであるミラー派の歴史に基づけば、当時その運動にいた人々の中には、いまなお「時に掛けられた」預言の適用を作り出し続けている者がいると私は確信している。日の下には新しいものは何もない。

その種の預言的な熱狂を続けるには、時間はあまりにも短すぎる。しかし、各人は自分の心のうちで十分に確信するがよい。そして、なおも時間を弄ぶ側に立つそれぞれの者は、Future for America がそれらすべての適用を拒絶することを心得よ。なぜなら、それらは悪魔的な惑わしにかならないからである。

七つの雷を成す四つの道標の内部に隠された預言の筋道こそが、今、ユダ族の獅子によって封印を解かれているものである。本稿は、「真理」と訳されるヘブライ語「'ēmet」について私たちが述べてきたことの単なる振り返りにすぎない。これまでに私たちが共有してきたすべてに触れたわけではないが、この振り返りの目的は、ヨハネによる福音書16章8節が、私たちが提案している七つの雷の内部に隠された預言の筋道に関する預言的モデルと完全に一致していることを示すことにある。

次回の記事で取り上げる結論に至る前に、まだもう少し検討が必要だ。

この書の預言のことばに封をしてはならない。時が近いからである。不義な者はなお不義であれ。汚れた者はなお汚れたままであれ。正しい者はなお正しくあれ。聖なる者はなお聖であれ。見よ、わたしはすぐに来る。わたしの報いはわたしと共にあり、各人にその行いに応じて与えるためである。わたしはアルファでありオメガである。初めであり終わり、最初であり最後である。黙示録 22:10-13